

講評

I

出典 土居 健郎「『甘え』の構造」

「甘え」という言葉についての筆者の分析を述べた文章です。筆者の説明を前から順を追って確実に理解していくことが、内容を把握するためのポイントです。

問1【漢字問題】(解答番号は①～⑦)

正答を示しておきます。全問正答率は、3.8%でした。漢字問題は知っていれば必ず得点することができるので、たくさん練習しておきましょう。

a 出典 b 大胆 c 帰結 d 無縁 e 頻繁 f 媒介 g 現出

問2【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑧・⑨)

空欄Ⅰと空欄Ⅱは対であり、直前の段落にある、古代日本人にとって天は「地から隔絶したものではなく」の部分がヒントです。「日本人の天が」は空欄Ⅰにかかるようにみえますが、よく読めば空欄Ⅱにかかることが分かり、日本人の天が連続の天(空欄Ⅱ)であることが導き出せます。正答は空欄Ⅰが②、空欄Ⅱが④です。正答率は0%でした。

問3【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑩)

この段落の内容からみると「発達の視点から見れば」という説明が文頭に置かれていると考えられるため、空欄Ⅲには⑥が入ります。正答率は15%でした。

問4【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑪)

空欄アの前後の流れを理解した上で空欄アの次行を読めば、正答②が導かれます。正答率は49%でした。

問5【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑫)

この段落の最後の行から分かるように「恵み」について述べられている部分であるため、正答は④となります。正答率は49%でした。

問6【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑬)

「しかも」という接続詞から考えると、「自分と母親が別々の存在であることを知覚」することに加えて、乳児が甘える必然性を生じさせる内容が、空欄ウに入ることが分かります。正答は⑤です。正答率は43%でした。

問7【傍線部の説明 文脈理解】(解答番号は⑭)

傍線部Aの次の段落を読めば正答が④であることが分かります。正答率は89%でした。

問8【傍線部の説明 内容理解】（解答番号は15）

①は「事実上否定されて」が間違い、③では「心の中に閉じ込める」わけではないため間違い、④は「絶望して」が間違い、⑤は後半部分が間違いです。よって正答は②です。正答率は68%でした。

問9【傍線部の理由説明 文脈理解】（解答番号は16）

本文の内容とは異なる選択肢を選びます。正答は⑤です。正答率は64%でした。

問10【小見出し 内容理解】（解答番号は17）

「甘え」という言葉について、歴史をさかのぼって述べているため、正答は③です。正答率は43%でした。

問11【内容合致】（解答番号は18）

正答は③・⑦です。⑧を選択する間違いがみられますが、本文をよく読むと、古代日本人にとって天は畏るべきものではないことが分かります。正答率は21%でした。

II

出典 佐伯 啓思「西田幾多郎 無私の思想と日本人」

日本を代表する哲学者・西田幾多郎の「無私」の思想について読み解いた本です。わかりやすい言葉で論理的に書かれた文章ですから、文意をつかむのは難しくないでしょう。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は19~23)

全問正答者はいませんでした。「習俗」、「述懐」の正答者が少なかったです。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は24・25)

空欄Ⅰは「常に権威は海外にあった」が、空欄Ⅱは直前の「輸入商人」や直後の「専門家」がヒントとなります。正答率はそれぞれ72%、30%でした。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適当なものを選ぶ】(解答番号は26)

空欄アの7行前にある「日常性の世界」や直前の「日常の世界」を踏まえて考えると正答が導けます。③は「日常経験に実体を与える」が間違いです。正答率は28%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は27)

傍線部Aの直前の文をよく読めば③が正答であるとわかるはずですが。正答率は59%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は28)

直後の数文をよく読み、「隷従」の意味を考えれば正答は導けます。正答率は59%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は29)

丁寧に読めば空欄アの直前の文に正答があると容易に気づくことができます。正答率は77%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は30)

この問題も空欄アの直前の文に正答があります。正答率は83%でした。

問8【指示語の内容を考える問題】(解答番号は31)

内容的に西田哲学の話であることは自明です。正答率は55%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は32)

傍線部Fに続く文章で京都や京大の特質をつかめば簡単です。正答率は85%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は33)

8頁の後ろから2行目、9頁の1行目がヒントです。正答率は62%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】(解答番号は34)

①と②を選択した誤答が多数ありました。「西田にとっては、学問的研究はほとんど関心の対象ではなく」と本文にあるので①は誤答です。確かに著者は西田に共鳴してはいますが、京都・京大であったからこそ西田哲学が生まれたという話がここでの中心テーマです。正答率は21%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は35・36）

正答率は②が60%、⑧が17%でした。⑦や①、⑤を選択している受験者が散見されました。問11の講評にも書いた通り、学問的研究は西田の関心の対象外で、⑦は明らかに不正答。①は「欧米の学者にかしずいている」が、⑤は「欧米で……不可能」がそれぞれ本文の内容に合致しません。③、④、⑥、⑨は本文をよく読めば、いずれも本文中に記されていない内容が入っていることをたやすく確認できるでしょう。